

考古学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
考古学概論	日本考古学概説	2	菅野 智則	4	月	2	1
考古学概論	先史考古学概説	2	阿子島 香	3	月	5	2
考古学基礎講読	考古学資料読解	2	田村 光平	4	月	5	3
考古学基礎実習	考古学資料の観察と記録	2	鹿又 喜隆	3	金	1、2	4
資料基礎論各論	先史考古学資料論	2	阿子島 香	6	月	3	5
考古学各論	日本考古学の諸問題	2	鹿又 喜隆	5	月	2	7
考古学各論	東北大学収蔵の考古学資料	2	藤澤 敦	5	火	3	8
考古学各論	日本の埋蔵文化財保護行政と考古学研究	2	藤澤 敦	6	火	3	9
考古学各論	生物考古学	2	奈良 貴史	集中(5)			10
考古学講読	先史文化研究	2	阿子島 香	5	金	2	11
考古学演習	考古学研究史	2	阿子島 香 鹿又 喜隆	5	金	4	12
考古学演習	考古学の方法と理論	2	阿子島 香	6	金	4	13
考古学実習	考古学の調査と資料分析(1)	2	鹿又 喜隆 阿子島 香	5	水	3、4	14
考古学実習	考古学資料分析法(2)	2	阿子島 香	6	水	3、4	15

科目名：考古学概論／ Archaeology (General Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 2講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：菅野 智則 (兼務教員)

講義コード：LB41201, **科目ナンバリング：**LHM-HIS202J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

日本考古学概説

2. Course Title (授業題目)：

Jeneral Lecture of Japanese Archaeology

3. 授業の目的と概要：

日本における考古学研究は、土器や石器等の人工遺物に関する研究が主体的となり進められてきました。しかし、過去の文化について深く理解するためには、多種多様な側面から研究する必要があります。例えば、動植物遺存体の研究からは食生活や周囲の環境、堅穴住居跡や墓などの諸施設の研究からは居住形態や社会構造などの当時の文化の一端を明らかにすることができます。そのほかには、考古学に限らず自然環境に関する研究などの他分野の様々な研究も過去の文化を理解する上では重要です。これらの多角的な視点や方法について、考古学では学ばなければなりません。本講義では、考古学に関する様々な研究の歴史を通じて、多種多様な研究方法や基礎知識について学びます。また、このことを通じて、考古学によって明らかにされた日本列島における歴史像を通史的に概観します。

4. 学習の到達目標：

(1) 日本考古学に関するこれまでの研究の歴史を理解する。(2) 日本考古学研究における多種多様な視点や研究方法を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 講義内容の概観と評価基準についての説明：本授業の内容の概観と評価基準について説明します。そして、考古学とはどのような学問かということに関して概観します。
2. フィールドワークの方法と実際：考古学におけるフィールドワークや室内での整理作業等について解説します。
3. 現代社会と考古学：世界遺産等で文化財（遺跡）が話題になることもあります。現代社会における考古学の位置付けについて説明します。
4. 第2次大戦前後の考古学研究史：考古学という学問が成立する前後の時期について、様々な論争を通じて説明します。
5. 第2次大戦後の考古学研究史：戦後に新たな視点により遺跡の発掘調査がなされ、様々な成果がありました。遺跡毎にその調査成果について解説します。
6. 近年までの考古学研究史：日本の景気が良くなると共に開発に伴う大規模な発掘調査が増加し、各時代の遺跡において様々な様相が明らかになってきました。遺跡毎にその調査成果について解説します。
7. 考古学における研究の枠組み：考古学に関する多様な研究視点、理論的研究について概説します。
8. 考古学研究の方法：考古学の伝統的な研究方法の一つとして、型式学的方法があります。縄文土器を素材として型式について説明します。
9. 考古学関連文献の取扱い：研究にあたっては、様々な文献を取扱います。その取扱い方について解説します。
10. 先史時代の考古学1：旧石器時代・縄文時代（早期）に関する主要な遺跡等に関して概観します。
11. 先史時代の考古学2：縄文時代（前期・中期）に関する主要な遺跡等に関して概観します。
12. 先史時代の考古学3：縄文時代（後期・晩期）に関する主要な遺跡等に関して概観します。
13. 先史時代以降の考古学1：東北地方の弥生時代以降の主要な遺跡等に関して概観します。
14. 先史時代以降の考古学2：13に引き続き東北地方の弥生時代以降の主要な遺跡等に関して概観します。
15. 日本考古学の展望：本授業のまとめを行います。それから、筆記試験を実施します。

6. 成績評価方法：

筆記試験[60%]・出席[40%]

7. 教科書および参考書：

プリントを適宜配布。参考書は講義中に随時提示する。

8. 授業時間外学習：

講義内で課した課題・質問に関して各自調べること。

9. その他：

オフィスアワー：月～金曜日 16:15～17:15（片平キャンパス・埋蔵文化財調査室）。事前にメール（tomonori.kanno.d4@tohoku.ac.jp）にて日程を確認すること。

科目名：考古学概論／ Archaeology (General Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：阿子島 香 (教授)

講義コード：LB31501, **科目ナンバリング：**LHM-HIS202J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

先史考古学概説

2. Course Title (授業題目)：

General Lecture of Prehistoric Archaeology

3. 授業の目的と概要：

先史考古学の歴史と特質、その資料としての遺跡・遺構・遺物の内容について、基礎的な事項を中心に学ぶ。主として石器時代の研究を対象とし、人類の文化進化について解説する。海外を含めて実際の調査、分析の事例を取り上げ、多数のスライドで紹介し、考古学の現在の状況についての理解を深める。

考古学遺跡の研究・出土遺物の観察について、各自の関心に従って、実際に自分で遺跡を訪ねるレポートを課します。その内容は授業で詳しく説明します。

4. 学習の到達目標：

(1) 先史時代の考古学研究の方法と歴史を理解できるようになる。(2) 考古学の資料の特質を理解できるようになる。(3) 猿人から新人までの人類文化の発展を理解できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス。授業の進行と評価基準についての説明。先史考古学の特質について。考古学研究史と文献の紹介 (1)。
 2. 埋蔵文化財の保護。考古学研究史と文献の紹介 (2)。
 3. 地域における遺跡の分布と発掘調査の方法。遺跡発掘調査報告書の理解。
 4. 層位学的方法と、編年研究の歴史。
 5. 猿人と原人の人類史、石器文化と生活様式。
 6. 氷河時代の環境変動と人類。
 7. 旧人から新人へ。ネアンデルタール人の文化。
 8. 期末レポートの説明と、注意点についての解説。受講者それぞれが選択した遺跡を、実際に自分で探訪してその成果をまとめる。文献のみではレポートを作成できない。
 9. 技術論。石器の製作技術と石材。
 10. 型式学。石器における器種と型式。
 11. 機能論。石器の使用痕の分析。
 12. 生業経済と遺跡。フランス、マドレーヌ文化の狩猟民。
 13. 精神生活の復元。クロマニヨン人の洞穴壁画。
 14. 考古学方法論の展望、および試験 (1 回目)。レポートの確認事項補足解説。
 15. 埋蔵文化財の展望、および試験 (2 回目)。レポート提出。
- 6. 成績評価方法：**
(○) 筆記試験 [30%]・(○) リポート [30%]・(○) 出席 [40%]
- 7. 教科書および参考書：**
参考文献について、随時教室で指示。資料プリントを多数配布する。その多くは、英語である。
- 8. 授業時間外学習：**
各回の配布資料を、よく理解するために補足学習を行なう。資料の内容を復習する。英文の場合は予習する。リポートについては、各自が日時を調整して、実際に遺跡・史跡、資料館などを自分自身の計画で探訪をすることが必要。
- 9. その他：**
毎回の出席を重視するが、出席カードには質問や感想などを記入してもらうことで、次回以降の授業内容にフィードバックを行なう。欠席の場合は、埋め合わせのミニレポートを提出する。

科目名：考古学基礎講読／ Archaeology (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 月曜日 5講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：田村 光平（兼務教員）

講義コード：LB41503, **科目ナンバリング：**LHM-HIS207J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

考古学資料読解

2. Course Title (授業題目)：

Archaeology (Introductory Reading)

3. 授業の目的と概要：

本講義の目的は、考古学研究の目的と手法を学び、考古学について自分なりの問題意識・視点を獲得することである。考古学研究は、対象とする時代・地域あるいは研究者によって、理論的・方法論的に多様である。そして、研究成果は論文として発表されるが、論文には形式が存在する。形式に沿って構造化された文章に親しむことは、論文から正しく情報を引き出すために必須である。具体的な論文の読解を通して、考古学と論文の構造についての知識を獲得しつつ、考古学研究の多様性を認識する。こうした知識の獲得と同時に、自分なりの問題意識・視点をもち、議論できるようになることをめざす。そのため、講義時に内容を報告するとともに、全員で意見交換を行う。

4. 学習の到達目標：

- ①考古学研究の目的について理解し、どのような具体的活動が行われているのかについて知識を深めること
- ②学術論文の構造について理解すること
- ③考古学の研究について、自分なりの視点をもち、議論できるようになること

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 講義：研究という活動について
3. 講義：論文の構造について
4. 英文読解と議論
5. 英文読解と議論
6. 英文読解と議論
7. 英文読解と議論
8. 英文読解と議論
9. 中間まとめ
10. 英文読解と議論
11. 英文読解と議論
12. 英文読解と議論
13. 英文読解と議論
14. 英文読解と議論
15. 最終まとめ

6. 成績評価方法：

発表（30%）・受講態度（40%）・レポート（30%）

7. 教科書および参考書：

授業時に文献を選択あるいは指示する。適宜資料を配布する。

8. 授業時間外学習：

各自が課題文献を予習済みであることを前提に進める。

9. その他：

科目名：考古学基礎実習／ Archaeology (Introductory Field Work)

曜日・講時：前期 金曜日 1 講時. 前期 金曜日 2 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：鹿又 喜隆（准教授）

講義コード：LB35102, 科目ナンバリング：LHM-HIS208J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

考古学資料の観察と記録

2. Course Title (授業題目)：

Introductory Field Work of Archaeological Materials

3. 授業の目的と概要：

考古学研究のなかで、出土した遺物を正確に資料化していく作業は、きわめて重要です。今後の研究の基礎として、そのための基本的な方法、技術、および各種遺物の観察の仕方を学びます。土器・石器などの実測図作製の実習を通して、実証的な研究態度を身につけ、資料に対する観察眼を養い、客観的な資料提示の方法を学びます。実習資料は、実際の出土品を扱います。

4. 学習の到達目標：

(1) 考古学における出土遺物の資料化の意義を理解できるようになる。(2) 特に実測図作成の基本を学び、各種遺物の実測図を作成できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

講義のスケジュールは以下の通りです。

1. 考古学における資料化
2. 剥片の実測図作成
3. ツールの実測図作成
4. 石核の実測図作成①
5. 石核の実測図作成②
6. 石核の実測図作成③
7. 磨製石器の実測図作成①
8. 磨製石器の実測図作成②
9. 縄文土器の実測図作成①
10. 縄文土器の実測図作成②
11. 縄文土器の実測図作成③
12. 縄文土器の実測図作成④
13. 土師器・須恵器の実測図作成①
14. 土師器・須恵器の実測図作成②
15. 拓本の作成と断面実測

6. 成績評価方法：

(○) 出席 [30%]・(○) その他（具体的には、提出課題と受講態度）[70%]

7. 教科書および参考書：

実測図作成に必要な用具の購入について、別途指示します。

8. 授業時間外学習：

課題が講義時間内に終わらない場合には宿題になります。

9. その他：

課題の完成にあたっては、随時、教員に確認をもらうこと。特に出席と毎時間の受講態度を重視します。毎回かなりの課題（実習整理室での宿題）がありますので、受講者全員に積極的な取り組みを期待します。

科目名：資料基礎論各論／ Scientific Study of Historical Materials(Special Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：阿子島 香（教授）

講義コード：LB61301, **科目ナンバリング：**LHM-HIS302J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

先史考古学資料論

2. Course Title (授業題目)：

Research Method of Prehistoric Archaeology

3. 授業の目的と概要：

先史時代の考古学資料研究の現状と課題について、発掘調査資料の基礎的な特質に応じた実証的な研究方法の理解を深める授業である。西ヨーロッパ（特にフランス南部）、北米（特にアメリカのグレートプレーンズ地域）、東アジア（特に韓半島、ロシアサハリン）など、世界各地の遺跡を比較文化的視点で考察する。旧石器時代を中心とする事例研究の中から、問題点を選択して詳説する。年代論、機能論、分布論のもつ意義を考察する。また理論的には、人類学の一分野であるアメリカの「プロセス考古学」学派による研究史、遺跡・遺物の分析法を学ぶ。受講者の関心をフィードバックしながら、タイポロジー（型式学）、遺物の使用痕分析、遺物の空間分布、石器製作技術、統計的方法などから取り上げ、具体的な分析方法を解説する。期末レポートにおいては、受講者は日本国内の発掘調査報告書を各自の関心に従って選択し、先史時代遺跡から発掘された資料の事実記録に基づいて、各自がデータの分析を試みる。

4. 学習の到達目標：

先史時代の遺跡・遺構・遺物の特質を、資料にそくして理解できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス。授業の構成と成績評価基準の説明。「キュレーター養成コース」の授業としての説明。アメリカ考古学の特質（1）。
2. アメリカ考古学の特質（2）。「人類学としての考古学」パラダイムと、日本の埋蔵文化財の考古学との比較。
3. アメリカ考古学の歴史（1）。1960年代のニューアーケオロジーと、その研究事例、社会的背景。ムスチエ文化論争の意義。
4. アメリカ考古学の歴史（2）。1970年代の「プロセス考古学」と、民族考古学の「ミドルレンジセオリー」の本質をめぐって。
5. ルイス・ビンフォードの考古学とミドルレンジセオリーの実践（1）。
6. ルイス・ビンフォードの考古学とミドルレンジセオリーの実践（2）。
7. 各国考古学の研究伝統と学史の特質。日本考古学、アジアの考古学、ヨーロッパの考古学の研究事例から（1）。
8. 各国考古学の研究伝統と学史の特質。日本考古学、アジアの考古学、ヨーロッパの考古学の研究事例から（2）。
9. 各国考古学の研究伝統と学史の特質。日本考古学、アジアの考古学、ヨーロッパの考古学の研究事例から（3）。
10. 課題レポートの解説（1）。対象とする遺跡の選択と調査報告書の特質。埋蔵文化財保護と考古学研究との関係をめぐって。
11. 課題レポートの解説（2）。発掘調査報告書における事実記載と解釈、考察の判断基準の問題をめぐって。
12. 先史考古学方法論の諸問題（1）。型式学と人間集団論および年代学。
13. 先史考古学方法論の諸問題（2）。機能論と使用痕分析法。
14. 先史考古学方法論の諸問題（3）。遺跡内での遺物分布。人間活動の復元。
15. 先史考古学の国際的展望。レポート提出。

6. 成績評価方法：

(○) レポート [60%]・(○) 出席 [40%]

7. 教科書および参考書：

参考文献について、随時教室で指示。毎回、資料としてプリントを配布する（英語および日本語）。

8. 授業時間外学習：

各回の講義のトピックに関して、各自で参考文献を学習し、理解を深める。配布プリントの内容に関連した事項について、文

献読解を行なう。レポートの対象とする「発掘調査報告書」は、各自の関心に応じて附属図書館の地下書庫で、配架されている埋蔵文化財報告書を探求し、レポート課題として選択する。

9. その他：

セメスター期間中を通じて、考古学や埋蔵文化財関連の行事、研究会・学会、説明会等を、そのつど紹介・解説するので、受講者は積極的に参加し、この授業と関連するテーマについての理解を深めていくことが望ましい。考古学専攻分野の活動等との関連で、授業内容に若干のスケジュール調整あり。

科目名：考古学各論／ Archaeology (Special Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：鹿又 喜隆 (准教授)

講義コード：LB51202, **科目ナンバリング：**LHM-HIS303J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

日本考古学の諸問題

2. Course Title (授業題目)：

Special Lecture of Japanese Archaeology

3. 授業の目的と概要：

この講義では、日本の考古学研究史を通して、日本考古学の独自性と特徴を研究史を通して学びます。また、近年の考古学の課題や問題点を明示し、その解決方法に関する具体的な事例を解説します。特に、先史時代を主な対象として、自然環境や社会環境と、人類行動の関係を把握します。

4. 学習の到達目標：

(1) 考古学研究の歴史を理解する。(2) 現在の考古学研究の方法を理解する。(3) 人類が自然・社会・文化とのかかわりの中で生きてきていることを理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

本講義は、講義中心の授業です。毎回、パワーポイントのプレゼンテーションにより講義を進めます。内容とスケジュールは以下の通りです。

1. 講義ガイダンス
2. 考古学の理論と方法 (1)
3. 抽象性の理解
4. 考古学の理論と方法 (2)
5. 寒冷適応
6. 環境変動の基礎的理解
7. 比較文化研究
8. 温暖適応
9. 災害と遺跡
10. 石刃技法をめぐる諸問題
11. 研究倫理と前期旧石器時代遺跡捏造事件
12. ヒトの姿を追って
13. 完新世の温暖化適応
14. 農耕の成立と展開
15. 植物利用の多様化

6. 成績評価方法：

(○) 筆記試験 [70%]・ (○) 出席 [30%]

7. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、プリントを配布する。参考文献を講義中に随時提示する。

8. 授業時間外学習：

講義内で試験課題に対応した設問をおこなうので、時間外に文献などで調べることを。

9. その他：

オフィスアワー：水曜日 16:20～17:00

科目名：考古学各論／ Archaeology (Special Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：藤澤 敦（教授）

講義コード：LB52301, **科目ナンバリング：**LHM-HIS303J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

東北大学収蔵の考古学資料

2. Course Title (授業題目)：

Archaeology collection of Tohoku University and history of the research

3. 授業の目的と概要：

東北大学には研究の基礎となり成果となった、膨大な資料標本や研究機器類がある。その中には、文学研究科の考古学資料が約 20 万件あり、これらの資料はおよそ 90 年間以上にわたる調査と研究によって収集されてきたものである。

本講義では、これらの資料について解説し、これら資料に基づいて構築された学説の意義について紹介するとともに、その研究史的意義と今日的な意義について検討する。本年度は、東北大学において進められてきた弥生時代および古墳時代研究の特質について検討する。

4. 学習の到達目標：

- (1) 東北大学が収蔵する考古学資料について理解する。
- (2) 東北大学の考古学資料の学術的意義を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 講義の概要と進め方の説明および導入
2. 東北大学での考古学研究の歴史
3. 東北大学収蔵の考古学資料の概要 (1)
4. 東北大学収蔵の考古学資料の概要 (2)
5. 考古学陳列館の見学と収蔵資料の解説 (1)
6. 考古学陳列館の見学と収蔵資料の解説 (2)
7. 東北大学における弥生文化研究 (1)
8. 東北大学における弥生文化研究 (2)
9. 東北大学における弥生文化研究 (3)
10. 東北大学における弥生文化研究 (4)
11. 東北大学における古墳文化研究 (1)
12. 東北大学における古墳文化研究 (2)
13. 東北大学における古墳文化研究 (3)
14. 東北大学における古墳文化研究 (4)
15. まとめ

6. 成績評価方法：

レポート (60%)・出席 (40%)

7. 教科書および参考書：

教室にて資料を配布する。参考文献については講義中に適宜紹介する。

8. 授業時間外学習：

前回の授業内容を踏まえて次の授業が進行するので、前回の授業内容の確認を行うこと。

9. その他：

科目名：考古学各論／ Archaeology (Special Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 3講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：藤澤 敦（教授）

講義コード：LB62301, **科目ナンバリング：**LHM-HIS303J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

日本の埋蔵文化財保護行政と考古学研究

2. Course Title (授業題目)：

Japanese Cultural Properties Protection Law system and the characteristic of the archaeological study

3. 授業の目的と概要：

日本では、発掘調査の圧倒的多数が、開発に伴う調査であることが特徴である。このような調査は、文化財保護法に基づく埋蔵文化財保護行政の一環として、行政機関によって実施されている。このことは日本における考古学研究に大きな影響を与えている。

本講義では、文化財保護法や関連する諸規定と、それに基づく埋蔵文化財保護行政の実際について解説する。あわせて、文化財保護行政の今後の展望についても検討し、その中での考古学研究のあり方について考察する。

4. 学習の到達目標：

- (1) 日本の埋蔵文化財保護行政の枠組みと実務について理解する。
- (2) 日本の文化財保護行政と考古学研究の関係について理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業概要と進め方の解説および導入
2. 日本の考古学をめぐる状況
3. 文化財保護法の基本理念と構成
4. 教育委員会制度
5. 文化財保護法に基づく埋蔵文化財保護行政 (1) 埋蔵文化財関係条文
6. 文化財保護法に基づく埋蔵文化財保護行政 (2) 保護調整手続き
7. 文化財保護法に基づく埋蔵文化財保護行政 (3) 記録保存のための発掘調査
8. 国指定史跡制度
9. 国史跡の保存管理と整備活用
10. 史跡の実地見学
11. これからの文化財保護行政 (1)
12. これからの文化財保護行政 (2)
13. 日本の埋蔵文化財保護行政と考古学研究 (1)
14. 日本の埋蔵文化財保護行政と考古学研究 (2)
15. まとめ

6. 成績評価方法：

レポート (60%)・出席 (40%)

7. 教科書および参考書：

教室にて資料を配布する。参考文献については講義中に適宜紹介する。

8. 授業時間外学習：

前回の授業内容を踏まえて次の授業が進行するので、前回の授業内容の確認を行うこと。

9. その他：

科目名：考古学各論／ Archaeology (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：集中(5), 単位数：2

担当教員：奈良 貴史 (非常勤講師)

講義コード：LB98806, **科目ナンバリング：**LHM-HIS303J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

生物考古学

2. Course Title (授業題目)：

Bioarchaeology

3. 授業の目的と概要：

目的：考古学に必要な自然人類学的知識の習得
ら出土する人骨のヒトとしての進化学的位置、ならびに生物学的特性を理解したうえで、発掘調査における人骨の取り扱い方と研究法を学ぶ。

概要：遺跡か

4. 学習の到達目標：

①人類進化の流れを説明できる。 ②人骨の解剖学的特徴を説明できる。 ③発掘調査における人骨の取り扱い方を説明できる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. どうして考古学に人類学的知識が必要か
2. 人類進化概説①霊長類の特徴
3. 人類進化概説②ヒトの定義
4. 人類進化概説③ホモ属の誕生
5. 人類進化概説④ホモ・サピエンスの誕生と拡散
6. 骨学概論
7. 骨学各論①頭骨
8. 骨学各論②体幹骨
9. 骨学各論③上肢骨
10. 骨学各論④下肢骨
11. 出土人骨研究法①遺跡での扱い方
12. 出土人骨研究法②研究室での清掃・復元
13. 出土人骨研究法③人骨の観察と計測
14. 出土人骨研究法④理化学的分析 - 遺伝子
15. 出土人骨研究法⑤ 理化学的分析 - 年代測定

6. 成績評価方法：

小テスト 30% レポート 70%

7. 教科書および参考書：

参考書 骨学実習の手びき 南山堂

8. 授業時間外学習：

授業時に提示する参考文献には必ず目を通すこと

9. その他：

科目名：考古学講読／ Archaeology (Reading)

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：阿子島 香 (教授)

講義コード：LB55207, **科目ナンバリング：**LHM-HIS308J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

先史文化研究

2. Course Title (授業題目)：

Studies in Prehistoric Culture

3. 授業の目的と概要：

考古学では近年、それぞれの地域、各時代における地域研究が深まり、国際的な比較研究は一層重要になってきている。この授業では、そのための基礎として、先史考古学、民族考古学の研究文献を正確に読解する力を養うことをめざす。単にテキストの英文を日本語に置き換えるのではなく、論じられている内容を、考古学の脈絡で理解することを目指し、資料分析の具体的方法について理解を深める。記載されている各分野の遺跡・遺物について、各受講者は、資料にそくした題材を自ら予習して調べ、総合的に学ぶ。また、アメリカの学術雑誌の実際の論文を通じて、海外の最新の動向の一端に触れながら、先史学の研究法を学ぶ。毎回、十分な予習が必要である。課題に関係する用語について、レポートを作成して、授業時間の中で報告し、受講者相互に理解を深める。また、テキスト読解の報告担当は、その場で当てる。出席と報告を重視する。

4. 学習の到達目標：

英語で書かれた先史考古学・民族考古学の学術文献を、基本的に正確に読解できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ガイダンス。成績評価基準の説明。授業のねらいの解説。最初のテキストの配布と説明。学史的な位置づけ。
- 2 専門文献の読解 (1)。英文和訳と内容理解との区別について。効果的な予習の方法。
- 3 専門文献の読解 (2)。「査読付き専門誌」と一般読者向け書籍・雑誌との本質的な区別について。
- 4 専門文献の読解 (3)。テクニカルタームということの意義について。
- 5 専門文献の読解 (4)。旧石器遺跡の発掘調査への参加者はそれにあてる (スケジュールの前後あり)。
- 6 専門文献の読解 (5)。各自の読解力の養成と専門知識の理解 (1)。
- 7 専門文献の読解 (6)。各自の読解力の養成と専門知識の理解 (2)。
- 8 授業で発表するレポート (用語解説と学史探求) 課題の出題と、各国の研究伝統についての解説。
- 9 専門文献の読解 (7)。各自の読解力の養成と専門知識の理解 (3)。
- 10 専門文献の読解 (8)。各自の読解力の養成と専門知識の理解 (4)。
- 11 専門文献の読解 (9)。各自の読解力の養成と専門知識の理解 (5)。
- 12 先史考古学の用語と学史についてのレポートの発表 (1)。
- 13 先史考古学の用語と学史についてのレポートの発表 (2)。
- 14 専門文献の読解 (10)。各自の読解力の養成と専門知識の理解 (6)。
- 15 専門文献の読解についての自己評価と、今後の展望、取り組んでいきたい分野 (アメリカを中心に) と時代 (旧石器時代から歴史時代まで) との認識。

6. 成績評価方法：

(○) リポート [20%]・(○) 出席 [30%]

(○) その他 (具体的には、毎時間の報告) [50%]

7. 教科書および参考書：

アメリカ考古学の英文プリントを教室で配布します。理論的には、プロセス考古学学派の著作、ビンフォードなどの専門文献から一部を選択して配布する。

8. 授業時間外学習：

各受講者の取り組みの状況をフィードバックしながら、英文テキスト解説の難易度および進行速度を調整していくので、各自、内容を理解できるように前もって、辞書はもちろん関連の専門書を調べていく時間を持つようにする。

9. その他：

授業での報告担当は、パラグラフ程度を単位として、その場でランダムにあてるので、あらかじめ十分な予習が毎時間、必要とされる。積極的な授業参加を期待する。

科目名：考古学演習／ Archaeology (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：阿子島 香・鹿又 喜隆（教授、准教授）

講義コード：LB55403, 科目ナンバリング：LHM-HIS309J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

考古学研究史

2. Course Title (授業題目)：

Seminar on Archaeological Studies

3. 授業の目的と概要：

日本考古学を中心に、明治時代以来の考古学研究の流れを整理し、今後の展望を探る。旧石器の編年と製作技術、縄文土器の型式学、縄文集落と社会、農耕社会の成立と発展、古墳文化、城柵官衙遺跡、古代窯業生産と供給、中・近世考古学その他、受講者各自が具体的な課題を選んで、順次、発表を行う。詳細な文献目録の作製、研究史の画期となった主要業績の解題、基本的な考古学資料の内容理解、調査研究報告書の詳細な検討、そして相互の討論を通して、研究の現状についての認識を深める。

4. 学習の到達目標：

(1) 日本考古学の研究史の流れを把握し、学史上の画期を整理して理解できるようになる。(2) 各時代、各地域の考古学における研究内容の広がりを理解し、現状を把握できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンスと研究発表の説明。

2. 学生による研究発表①

3. 学生による研究発表②

4. 学生による研究発表③

5. 学生による研究発表④

6. 学生による研究発表⑤

7. 学生による研究発表⑥

8. 学生による研究発表⑦

9. 学生による研究発表⑧

10. 学生による研究発表⑨

11. 学生による研究発表⑩

12. 学生による研究発表⑪

13. 学生による研究発表⑫

14. 学生による研究発表⑬

15. 学生による研究発表⑭

6. 成績評価方法：

(○) リポート [30%]・(○) 出席 [30%]

(○) その他（具体的には、発表と討論）[40%]

7. 教科書および参考書：

教室にて指示、プリントを配布。

8. 授業時間外学習：

発表内容は、時間外に各自がまとめる。

9. その他：

考古学演習を通年で連続履修することが望ましい。

科目名：考古学演習／ Archaeology (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：阿子島 香 (准教授)

講義コード：LB65402, **科目ナンバリング：**LHM-HIS309J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

考古学の方法と理論

2. Course Title (授業題目)：

Method and Theory of Archaeology

3. 授業の目的と概要：

考古学研究の歴史と現状について、各自の関心領域を中心にまとめて発表し、相互の討論を通じて理解を深める。各時代の研究における、型式学と技術、材質研究、編年と地域性、生産と流通、文化変化、環境と生業活動、社会と集団、葬制、集落論など、具体的に課題を選択し、詳細な文献目録を作成し、現在の問題点を的確に把握し、今後の各自の研究指針を追究する。

4. 学習の到達目標：

(1) 日本考古学研究の現状について、学史の流れを踏まえて問題点を展望し、各自の研究テーマを具体的に追求できるようになる。(2) 近年その内容が非常に多岐にわたる考古学研究の、広がりや深まりを認識し、各自の研究方法を位置づけられるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 学生による研究発表①
2. 学生による研究発表②
3. 学生による研究発表③
4. 学生による研究発表④
5. 学生による研究発表⑤
6. 学生による研究発表⑥
7. 学生による研究発表⑦
8. 学生による研究発表⑧
9. 学生による研究発表⑨
10. 学生による研究発表⑩
11. 学生による研究発表⑪
12. 学生による研究発表⑫
13. 学生による研究発表⑬
14. 学生による研究発表⑭
15. 学生による研究発表⑮

6. 成績評価方法：

- (○) リポート [30%]・(○) 出席 [30%]
(○) その他 (具体的には、発表と討論) [40%]

7. 教科書および参考書：

教室にて指示、プリントを配布。

8. 授業時間外学習：

発表内容は時間外に各自がまとめる。

9. その他：

考古学演習を通年で連続履修することが望ましい。オフィスアワー：金曜日 13:30～14:30

科目名：考古学実習／ Archaeology(Field Work)

曜日・講時：前期 水曜日 3講時. 前期 水曜日 4講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：鹿又 喜隆, 阿子島 香 (准教授、教授)

講義コード：LB53306, **科目ナンバリング：**LHM-HIS310J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

考古学の調査と資料分析 (1)

2. Course Title (授業題目)：

Research and Analysis of Archaeological Materials

3. 授業の目的と概要：

考古学研究の基礎として、遺跡・遺物の資料化と資料操作の標準的な手順と方法を学ぶ。今年度は、土器・石器の整理、属性分析を学ぶ。通年で、出土品の処理と整理、正確な実測図の作製、コンピュータを使用した資料分析の基本などの実習を行い、基礎的な方法を学ぶ。考古学標本室の収蔵品の資料化とデータベースの実際を経験する。大学院の考古学研究実習と連動して、課題に取り組む。発掘調査報告書の作成のための方法を具体的に学ぶ。特に出席および毎回の受講態度を重視する。相当量の宿題あり。

4. 学習の到達目標：

(1) 考古学資料の基礎的な分析法を理解できるようになる。(2) 共同研究の意義について、理解できるようになる。(3) 考古学資料の整理と分析を経験し、調査報告書作成の実際を行う。(4) 発掘調査実習を通して、調査方法の基礎を学ぶ。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

講義のスケジュールは以下の通り。

出土遺物の属性入力 (観察と計測、入力と統計操作) ①

出土遺物の属性入力 (観察と計測、入力と統計操作) ②

発掘調査実習①

発掘調査実習②

出土遺物の属性入力 (観察と計測、入力と統計操作) ③

調査資料・収蔵資料の取扱いとデータベース構築①

調査資料・収蔵資料の取扱いとデータベース構築②

遺物の実測と製図①

遺物の実測と製図②

遺物の実測と製図③

遺物の実測と製図④

遺物の実測と製図⑤

測定の基礎と機器の操作①

測定の基礎と機器の操作②

測定の基礎と機器の操作③

6. 成績評価方法：

(○) リポート [30%]・(○) 出席 [40%]

(○) その他 (具体的には、受講態度と発掘調査等への積極的な取り組み)「30%」

7. 教科書および参考書：

教室にて指示。

8. 授業時間外学習：

夏季に発掘調査を実施する。講義内で課題が終わらない場合には、宿題となる。

9. その他：

考古学実習を通年で履修することが望ましい。15回の講義の順番は、発掘計画に応じて前後することがある。

科目名：考古学実習／ Archaeology(Field Work)

曜日・講時：後期 水曜日 3講時, 後期 水曜日 4講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：阿子島 香（教授）

講義コード：LB63307, 科目ナンバリング：LHM-HIS310J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

考古学資料分析法（2）

2. Course Title（授業題目）：

Methodology of Archaeological Analysis

3. 授業の目的と概要：

5セメスターに引き続き、実際の遺跡発掘調査による資料の整理と分析作業を通して、考古学における遺跡調査法、資料分析法の基礎を学ぶ。資料に対する観察眼を養い、遺跡・遺物の調査研究を進めていくために必要な実技を修得する。遺物の特徴に応じた写真撮影の方法を実習する。資料保存・修復の作業実習も行う。また通年において、発掘技術、測量作業、記録法などの実際の発掘調査現場において学ぶ。特に出席および毎回の受講態度を重視する。相当量の宿題あり。

4. 学習の到達目標：

（1）考古学資料の基礎的な分析法を理解できるようになる。（2）共同研究の意義について、理解できるようになる。（3）考古学資料の整理と分析を経験し、調査報告書作成の実際を行う。（4）発掘調査実習を通して、調査方法の基礎を学ぶ。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 発掘調査で出土した資料と図面類の整理（1）。
 2. 発掘調査で出土した資料と図面類の整理（2）。
 3. 遺物の観察・記録と図化（1）。
 4. 遺物の観察・記録と図化（2）。
 5. 遺物の観察・記録と図化（3）。
 6. 遺物の観察・記録と図化（4）。
 7. 製図・トレース・レイアウトの作成（1）。
 8. 製図・トレース・レイアウトの作成（2）。
 9. 製図・トレース・レイアウトの作成（3）。
 10. 写真撮影（1）。
 11. 写真撮影（2）。
 12. 写真撮影（3）。
 13. 保存処理に関する研修。
 14. 発掘調査報告書の作成に関わる編集作業（1）。
 15. 発掘調査報告書の作成に関わる編集作業（2）。
6. 成績評価方法：
- （○）リポート〔30％〕・（○）出席〔40％〕
- （○）その他（具体的には、受講態度と発掘調査等への積極的な取り組み）〔30％〕

7. 教科書および参考書：

教室にて指示。

8. 授業時間外学習：

講義内で課題が終わらない場合には宿題となる。

9. その他：

考古学実習を通年で連続履修することが望ましい。発掘調査の出土量や作業の進捗に応じて、講義内容は前後します。